

おすすめの新书推荐

湘南学園中高図書室

「科学検定 公式問題集」

竹内薫[著]
講談社 400-ク

この本は小学校4年生から、中学校1年レベルの知識で答えることができます。問題集というより、クイズの本を読んでいるみたいです。教科書の枠にとられない科学の面白さと不思議さが実感できる一冊です。

「アヴェ・マリアのヴァイオリン」

香川宜子[著]
角川書店 913-カ

ヴァイオリンを習っている、徳島に住む主人公。ある日、自分のヴァイオリンの前の持ち主が収容所アウシュヴィッツの生存者であることを知る。なぜ前の持ち主はヴァイオリンを手放したのか？

「図説 英国紅茶の歴史」

小野寺優[著]
河出書房新社 596-ス

「紅茶と聞いてイメージする国は？」恐らくイギリスと答えるかと思います。実際、イギリスでは紅茶は国民の嗜好品であり、観光資源にもなっています。そんな紅茶にまつわるイギリスの歴史を紹介します。

「生命とは何だろう？」

長沼毅[著]
集英社インターナショナル
460-ナ

地球に最初の生命が誕生してからおよそ38億年。最初の生命はどこで生まれたのか？そもそも生命とは何なのか？生命に関する様々な謎をわかりやすく解説します。

「不祥事」

池井戸潤[著]
講談社文庫 913-イ

誰に対しても物怖じせず意見を述べる花咲舞と、弱腰で保身タイプの相馬健の二人が、銀行の支店を舞台にトラブルや不祥事を解決していく。2014年4月16日より『花咲舞が黙ってない』でテレビドラマ化されました。

「カフェかもめ亭 猫たちのいる時間」

村山早紀[著]
ポプラ社 913-ム

喫茶店(カフェ)かもめ亭のマスターである主人公と、カフェに訪れたお客さんとの会話の中で語られる猫たちの物語。猫ってどうやら、魔法の力を持っているらしいんです。

「猫を抱いて象と泳ぐ」

小川洋子[著]
文藝春秋 913-オ

主人公はある日、廃棄されたバスにポーン(チェスの駒の一つ)という名の猫と暮らす巨漢の男からチェスの指導を受け、すぐにその才能を開花させていく。やがて、ロシアの伝説的チェスプレイヤーになぞらえて、その名を呼ばれることに。

「リヒャルト・シュトラウス」

岡田暁生[著]
音楽之友社 762-シ

ドイツの作曲家で、交響詩とオペラの作曲で知られ、指揮者としても活躍したシュトラウスの一生を記した本。ナチスが台頭していた頃、国際的名声を誇る彼を、ナチスが狙わないはずがなかった。

「路上のストライカー」

マイケル・ウィリアムズ[著]
岩波書店 933-ウ

主人公は兄と共に故郷の村での虐殺を生き延びて、見知らぬ父のいる南アフリカを目指す。しかし、困難の果てに待っていたのは、外国人である自分に向けられる憎しみと恐れだった。

「できることをしよう。」

糸井重里[著]
新潮社 369-1

2011年3月11日に日本で発生した巨大地震。大震災という非日常に直面したとき、ごく一般の「ふつうの誰かさん」はどんな決断をしたのか？ 私たちも「ふつうの誰かさん」。それぞれの場所で、できることをしよう。

「ツリーハウス」

角田光代[著]
文藝春秋 913-カ

東京・新宿にある三代に渡って経営される中華料理店。その三代目に当たる主人公は、祖父の死をきっかけに、祖父母がどこで生まれ、なぜ店を開くことができたのか興味を持つ。実は、祖父母は中国の満州に住んでいた。

「星空ロック」

那須田淳[著]
あすなる書房 913-ナ

中学2年の夏休み、諸事情で1人でベルリンへと向かうことになったギター少年の主人公。異国の地で出会った同い年の子ども達と共にロックをすることに。ひと夏の体験から、主人公は大きく変わっていく。

「語りつぐ者」

パトリア・ライリー・ギフ[著]
さ・え・ら書房 933-キ

友人から羊皮紙に描かれた絵を見せてもらった主人公。その絵は主人公の顔立ちにうりふたつだった。絵のモデルは、今から200年以上前のアメリカ独立戦争に巻き込まれた18世紀の少女であった。彼女の身にいったい何が。

「日本語スケッチ帳」

田中章夫[著]
岩波書店 810-タ

日本語を第一言語とする人は、世界で第9位。実はドイツ語より少し多いのです。そんな日本人でも意外と知らない日本語が多数掲載。例えば、「大坂」が「大阪」に変わった理由は「土に反(帰)る」が縁起が悪いから。

「世界の首都204が1冊でわかる本」

都市の魅力探究会[著]
KADOKAWA 290-セ

国際的に承認されていない国も含めて、204の首都を写真つきで紹介。手のひらサイズの本なので、どこでも読めます。各国の国旗に、首都にまつわるトリビアなどが掲載されていて、色々と為になります。

「雷の季節の終わりに」

恒川光太郎[著]
角川書店 913-ツ

現世とは異なる世界で暮らす主人公。一緒に暮らしていた姉がいたが、ある年の雷の季節に行方不明になってしまう。ある日、殺人犯の証拠をつかんでしまうが、逆に殺人の罪をなすりつけられ、追われる身となってしまった。

「ホタルの光は、なぜだらけ」

大場裕一[著]
くもん出版 468-オ

きれいな川に生息し、お腹が発光することで知られるホタル。季節の風物詩ともなっている昆虫ですが、なぜ光るのか？光の役割とは？実はよくわかっていません。そんな疑問に研究者達が挑戦。

「花咲小路四丁目の聖人」

小路幸也[著]
ホプラ社 913-シ

舞台は花咲小路商店街。英語塾を営む主人公の父は、日本に帰化したイギリス人。実は、若い頃は美術品を中心に泥棒をしていた。商店街で起きた詐欺や不倫騒動など、その手腕で解決。